

## 平成18年度「春の叙叙」 永岡清正さんが瑞宝単光章を受章

元方城町消防団副団長の永岡清正さん（湧淵団地・76歳）が瑞宝単光章を受章しました。永岡さんは昭和35年から44年間にわたって消防活動に尽力。昭和53年に起きた伊方長浦の山林大火災や昭和61年の機械倉庫火災、平成15年の集中豪雨をはじめ、町内の災害に迅速に対応してきた功績がたたえられました。受章おめでとうございます。



↑受章した永岡さん（右）、勲章は6月23日に浦田町長が届けました。

↓各パーツのバランスが難しかったという風鈴、展示は8月7日まで。



## 上野焼陶芸館ギャラリー陶「涼風感展」 音色涼やか色鮮やかな上野風鈴

上野焼陶芸館ギャラリー陶で7月19日から「涼風感展」が行われ、14窯元による160点の風鈴が並んでいます。上野焼協同組合主催で初の取り組み。5月から企画し、試作を重ねて焼成された風鈴は、どれも微妙に違う音がして、風が吹くと涼しげなハーモニーを奏でます。色も形も個性的、音色だけでなく趣深い造形もお楽しみください。

## 金田学園の七夕飾り 役場ロビーに願いを込めたササ飾り

7月3日に金田学園の園生による「七夕の飾りつけ」が本庁ロビーと金田郵便局で行われました。知的障害者施設への理解を深めて欲しいと始められ、今年で18回目。願い事が書かれた短冊には「元気で過ごせますように」など、健康に関するものが多くみられました。訪れる人からも「きれいだね」と評判も上々、年々レベルアップしています。



↑約1週間かけて作ったササ飾り、起こすと2.5メートルの高さになります。

↓外は土砂降り、参加が心配されましたが122人が駆けつけました。



## 高齢者大学合同講演会 受講者が一堂に会し初の合同開催

7月20日に金田分館で高齢者大学合同講演会が開かれました。旧町単位の3か所で開催しているため、受講者が一堂に会するのはこれが初めて。講師に赤村源じいの森事務理事の太田博さんを迎え、122人が笑いと感動の講演に集中しました。演題は「今が旬」、参加者からは「元気が出た、頑張ろうと思った」などの反響があり、好評でした。

↓20人が呼吸を合わせて漕ぐ「カッター」、バックに宿泊した波戸岬少年自然の家が見えます。



## 夏季少年のバス 心一つにした夏休みの3日間

青少年育成町民会議主催の「夏季少年のバス」が7月21日～23日まで、佐賀県唐津市の波戸岬を舞台に行われました。町内8小中学校から小4～中3までの65人が参加。力を合わせて救命艇を漕ぐ「カッター」の研修や救命救急講習、夜はスイカ割りや花火などで学校や学年の枠をこえて交流を深めました。福智町全体の子どもの対象とした事業で初開催となった少年のバス、子どもたちにとって夏休み最初の思い出ができました。

## 商工会婦人部ソフトバレーボール県大会 ハイレベルな一般の部で赤池が初優勝

商工会婦人部ソフトバレーボール県大会で、赤池町商工会チームが見事初優勝を果たしました。大会は7月9日にかすやドーム（粕屋町）で行われ、予選を勝ち抜いた21チームが出場。小島富士美さん・太田千恵子さん・田中佐和子さん・稲垣和泉さん・星月香さんが抜群のチームワークでレベルの高い一般の部を制し、優勝旗を持ち帰りました。



↑達成感と喜びにあふれた赤池町商工会チーム、県大会会場。

↓届けられた一辺30cmほどの氷塊は、空気を含んで白っぽく見えます。



## 極地「南極の水」体験学習 極地の氷に太古の音を聞いて

海上自衛隊の砕氷艦しらせが4月に持ち帰った南極の氷が、7月7日に赤池中へ届けられました。南極の氷が教材用に使われるのは珍しく、今年は自衛隊福岡地方連絡部が赤池中を含め県内2校だけに贈呈。生徒たちは初めてみる極地の氷に目を見張り、閉じこめられた約2万年前の空気がとける音や色を観察、味も確かめて思いをはせました。